

街のスゴ腕 獣医師さん

愛知県・名古屋市

日帰り手術で
安心だ
ワン!

ペットと飼い主、 さらに獣医師の 「安穩」を求め 出合った治療法とは

名古屋市にある「動物レーザーセンター」は、日本ではまだ数少ないレーザーを用いた治療や手術が受けられる動物病院。院長とレーザー医療の出会いや思いをご紹介します。

獣医師の経験を経て レーザー技術の 必要性を実感

もしもペットが病気や怪我に見舞われたら、あなたはどうしますか？多くの場合は最寄りの動物病院へ行くと思いますが、その選択肢のひとつとして知っておきたいのが、「レーザー医療」の存在です。

日本での普及率はまだ低いですが、アメリカでは一流アスリートのスポーツ医療の現場やペットに対しても用いられる、比較的ポピュラーな手法。日本でいち早くその手法を取り入れたのが、「動物レーザーセンター」の院長です。「動物を狭いケージに何日も拘束して治療したり、麻酔から覚めて知らない場所での寂しさや痛みで鳴き叫ぶ様子を見るのも辛い」。すでに獣医師として活躍していた院長がそんな思いを抱いていた時出会ったのがレーザー医療でした。今後の獣医学の発展と、何より動物のためと決意し、渡米しました。慣れた手つきでレーザーのメスを操るアメリカのドクターから直

にそのノウハウを学んだ院長。今までのメスによる手術との違いを目の当たりにし、「この技術を日本の患者さんに役立たせたい」と、日本人初のアメリカレーザー外科認定医として、「動物レーザーセンター」を立ち上げました。

日帰り手術など 可能な限り負担を軽減

レーザー医療を通じ、院長が感じたことは、従来の治療・手術に比べ、ストレスが少ない。ということ。止血しながら切るため出血が少なく、麻酔からの回復も早い。医師も見やすい状態で施術でき時間が短縮されるので、動物への負担も軽減されます。去勢・避妊手術の他、高齢犬・猫の乳腺腫瘍や体表腫瘍、耳鼻科手術などが、従来では入院が前提の手術の多くが日帰りで済むようになったといえます。

手術や医療処置などにより患者の身体に与える傷害を最小限に抑える治療法のことを「低侵襲医療」といい、近年では、腹腔鏡で体内を見ながら、鉗子や電気

メスで施術する手術法が開発されましたが、これも低侵襲医療の一例といえます。

一方、レーザー医療は、患者の負担を軽減するだけでなく、肉体的・精神的に「安穩」を与える、低ストレス医療。だと、院長は考えます。患者（ペット）だけでなく、ペットを心配する飼い主の精神的なストレスの緩和や、手術の確実性から、獣医師の術後の不安や心配の軽減にも繋がり、「患者（ペット）・飼い主・獣医師の三者が、みなハッピーになれる」と院長。現在、日本レーザー獣医学研究会の理事も務める院長は、自らの経験談などを織り交ぜながら、様々な講演を通じてレーザー医療の普及に尽力。自院では初診料を無料にするなどして、気軽に受診できるような配慮もしています。ペットがもしもの際には、一度相談してみるのもいいでしょう。



Pioneer
動物レーザーセンター
院長 関 昌弘 先生

レーザー先進国・アメリカでトレーニングを積み、日本人で初めてのアメリカレーザー外科認定医となる。名古屋市内はもちろん、県外からの来院者も多数。



▲植物に囲まれリラックスできる待合室。



愛知県・名古屋市 動物レーザーセンター

- ☎052-751-3116
- www.alc-japan.com
- 愛知県名古屋市昭和区塩付通1-9
- 予約受付時間 / 8:00~17:30 (土曜は ~12:30)、日曜・祝日 休診
- 駐車場 / あり(5台)

